

「術後集中治療室にて長期鎮静管理を必要とする患者におけるせん妄発生頻度と血圧の関連の調査」に関する研究のお知らせ

この度、奈良県立医科大学では集中治療室で術後長期間、麻酔薬を使用する必要であった患者さんを対象として、術後せん妄との関連について研究を行うこととなりました。

全身麻酔後に一時的に認知機能が低下して時間や場所が急にわからなくなったり、注意力や思考力が低下したりすることがあります。これをせん妄と呼びます。せん妄を引き起こす原因はさまざまですが、その中でも血圧が低いとせん妄が起こりやすいとされています。特に長時間、麻酔によって眠ってもらっていた患者さんは血圧を適切に維持する必要があると思われませんが、実際、どれくらいの血圧が適切であるかは不明です。

この疑問を過去に研究で証明したものは少ないため、今回我々は研究を実施することとしました。本研究は医の倫理審査委員会の承認・学長の許可を得てから実施しております。

研究の方法は、2016年1月から2022年6月の間で頭頸部の手術を全身麻酔下で受けたのち、気管切開され術後集中治療室に2日以上滞在された患者さんです。対象となる患者さんのカルテや麻酔記録からデータを収集し統計解析を行います。研究期間は研究実施許可日から2024年12月31日までとなります。収集する項目は麻酔科術前診察の記録、性別、体重、麻酔の方法、術後ICUでの管理記録、せん妄の有無などです。この際、患者さんのお名前や生年月日、住所などの個人情報とは削除された形で解析が行われますので個人情報が表に出ることはございません。ご希望があれば個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲で研究計画書の内容をみることができます。ご希望される場

合は下記の研究責任者にご連絡ください。なお、ご自身の情報について本研究に利用することを承諾されない方は下記にご連絡ください。その場合においても診療上不利益を被ることはありません。

奈良県立医科大学 麻酔科学教室

研究責任者 内藤祐介 (内線：3469)